

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400317		
法人名	株式会社 新風会		
事業所名	グループホーム昴星		
所在地	西予市城川町下相693番地	(電話)0894-82-1027	
自己評価作成日	平成 22年 2月 15日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22年 2月 26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームが地域の方に理解して頂く様に年一回の納涼祭では、ボランティアの人たちの参加を呼びかけています。又、いつでも見学して頂く様に解放し、中学生の体験学習にも受け入れて地域とのより良い関係が築いて行ける様に努力しています。又、家族が見えられた時に、利用者さんの顔が穏やかで、良い顔になっておられると言って頂く様に職員全員で、きちんと挨拶が出来、責任のある行動、言動に気を付けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人が運営する複数の事業所が相互に連携しながら、利用者のケアの質の向上に努めている。「私たちは家族として」から始まる理念をもとに職員個々が作成する年間目標を個人ロッカーに掲示して、日々の業務を振り返っている。職員からは、「利用者一人ひとりと関わりの深さには苦しさをとまなう場面もあるが、利用者の明るい表情に癒され、仕事にやりがいを感じている」との話が聞かれた。ホームは開設から4年が経過し、地域との連携をさらに深めたいとの思いから、近隣の他法人事業所と連携し、運営推進会議に参加し合って互いのホームの良いところを吸収し、新たな取り組みを生み出そうと努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム昴星
(ユニット名)	第一ユニット
記入者(管理者)	
氏名	高田 富美
評価完了日	平成 22 年 2 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念は見えるところに掲示している。家族としての役割や、意識を持って関係を深めるためにも、深く理解する必要がある。今後も共有して実践していきたい。</p> <p>(外部評価) 法人全体の理念のほか、ホーム独自の理念も作成している。ホームの理念は、利用者と職員が一家族を構成しているという考えで作成しており、「私たちは家族として」から始まる言葉で表現している。この理念に基づき、全職員が個別に年間目標を掲げ、その達成度の評価を行っている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 事業所の役割として地域になじむ生活を心がけている。地域の行事への参加や地元の活動への協力など出来ることは行っている。</p> <p>(外部評価) ホームは地域とより深く強く連携したいと願い、利用者とともに積極的に地域行事へ参加したり、納涼祭等のホーム行事に地域の方をお誘いしたり、中学生の職場体験も受け入れるなどしている。次の段階として、保育園との交流を目指して検討中である。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 小・中学校の研修や職場体験を通して認知症の理解や支援の方法を伝えている。さらに、認知症を患っている本人や家族の支援も行いたい。(関わり方や介護方法等)</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 利用者からのサービスの実際の報告や、家族の報告が自然と行われた。普段や行事方向や調査結果報告などが主である。昨年途中からメンバーに寺の住職が加わり、また、来年度からは他のGHが参加することになっている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者及び家族も参加している。会議内容の多くがホームからの情報発信・報告であるという状況等から新たな取り組みが必要であると考え、近隣の他法人事業所と相互に会議に参加し合い、互いの良いところを参考に会議内容を検討する等を計画している。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 困難な事例についての相談や取組みについて、協力をいただいている。今後も何でも連絡を取り協力関係を築いていけるようにしたい。</p> <p>(外部評価) 市担当者とは、支援の困難な利用者に関する相談を行った経験や、日頃の情報交換などから、お互いに理解し、円滑な協力関係が築かれている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 全職員が理解している。いつも疑問に思うことであるが、命の危険がある場合、本人が手の機能を失うなどにならない限り身体梗塞の解除にはならない場合もある。そのようになれば本人もどんなにか嬉しい事かと思う。</p> <p>(外部評価) 職員は人権を守るケアについて学習し、十分理解している。家族と幾度も話し合った結果、家族及び職員相互の理解のもと、ベット柵の利用、車いすのベルト固定、つなぎ服の着用等を行うケースがある。</p>	現在の状況から一日も早く脱却できるよう、職員全員で検討して意識統一を図り、身体拘束をしないケアの実践に向けて努力していくことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 資料を手渡し、自己学習を進めている。施設内での学習会を開きたい。わずかの变化もどのようにしてなったのか原因を突き止め、虐待の防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する制度の理解は活用する人がいないため、通り一遍の学習しか行っていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事前調査時や契約時に十分な話し合いを行い、近いと納得をいただいている。新たな問題はその都度、解決するように話し合っていく必要がある。料金改定については、文書の発送と面談時に説明を行い納得していただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議での席で、自由に意見交換をしている。介護相談員や民生委員の訪問時には、利用者に前もって伝えておき、話たいことが言える場所を作っている。 (外部評価) 利用者及び家族も運営推進会議のメンバーであり、意見や要望を聞く機会を設けているほか、介護相談員の来訪などもあり、職員は利用者や家族がゆっくり話できる場の確保に配慮している。また、家族の来訪時は意見を聞ける大切な機会と捉え、積極的に対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 会社での会議が(総務)2ヶ月に1回あり、意見交換がされる。事業所でもよい意見や実情のそぐわないと思うことは、経営者に提案や、報告をしている。業務カンファレンスを月に1回設け、職員に意見を吸い上げている。 (外部評価) 毎月の業務カンファレンスのほか、日常的に管理者・ホーム長が職員の意見や提案を聞いている。運営法人では、2か月に1回のホーム長会議を職員の意見を聞く機会としている。会議内容は口頭あるいは申し送りノート等の記録で全職員に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の数が多く、どの程度把握できているのかわからない。介護福祉士や必要とされる資格などを取得することで手当ては付く。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員育成については、各ホームでの取り組みとしても考えるところであり、段階に応じた学びの機会を伝え、各自で必要な研修に参加しそれを会議の場で報告し全員で共有している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 会社のなかでの事業所間の交流はある。しかし、月1回の会議での発言だけであまり実のあるものとはなっていない。来年度からは、市内のGHとの交流が始まる。これをきっかけにサービス水準の向上つなげるようにしたい。まず第一歩。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査や入居時、本人からの心配事や要望等を聴き、安心できるように本人に合わせた会話を心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査や入居時に、家族や本人の心配事を聴き、を聴くことで要望や安心感着るよう支援している。今まで親しみなれた呼ばれ方や、習慣を聴き今後の対応で気持ちの一致ができるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 現在では、看取りケアも多くなっている。本人や家族の希望もあり、終の棲家となる場合もある。病院受診やその他の必要な医療についての見極めが必要となり通院介助にも対応している。時には家族の同行を求めることもある。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩であることを尊重、尊敬し、本人の得意とされていたことを見出し教を請うたり、ともに学び、支えあい楽しく過ごせるように心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族が職員にゆだねきりになり、面会にも訪れず寂しい思いをしている場合には、最近の状況の報告を行い、これ迄の関係がより一層よくなるように支援している。本人・家族のこだわりや苦しみを受け止め、両者の気持ちになって安心していただけるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人が行きたい生まれた場所や実家など、また友人や親戚・知人などに会いにいけるよう支援する。暖かくなったらと約束している。夫婦や兄弟での入居者には、毎日のようにお互いの階に訪問し、思いが途切れないように支援している。 (外部評価) 併設のデイサービス利用者との交流や、夫婦や兄弟で入居している利用者がそれぞれ交流できるよう、職員が支援している。来訪者のほとんどが家族であり、友人等の訪問は多くない。	職員は、地域への浸透度はまだまだ低いと考えており、周知のための取り組みについて今後さらに工夫していくことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) コタツを囲んで、入居者同士が話し合うこともある。耳が遠い人が多く、仲を取り持ちながらの会話もある。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去時については、家族の今後の不安についての相談もあり、必要に応じて関係機関につなげている。住み替えの場合、次の関係者にケアの工夫や、楽しみ、習慣、好物など情報の提供をしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 起床、就寝、食事時間など基本的には希望に添っている。混乱して話が通じないときなどは、本人本位に検討している。希望のおやつなどは一緒に買いに行くなど、思いや意向が実現できるように支援している。	
			(外部評価) 利用者ごとの生活歴を把握し、利用者本位の生活支援を目指している。日頃の様子や、職員からの声かけに対する利用者の言葉を詳細に記録することで得た情報を、介護計画や日々の支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査表を見たり、コミュニケーションをとる中で把握しようと努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 本人の特徴を把握し、チーム全員が利用者のできる力を見落とさないように話し合っている。また、ゆっくりでも手を出さず、見守ることによって新たな有する力を見つけ出すこともある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアカンファレンスの日には、休みの職員も会議に出席し、また必要時には、本人や家族を交え意見を出し合い、本人に最も適したよい暮らしができるように、ケアプランを作成している。	
			(外部評価) 介護計画は3か月に1回見直している。可能な範囲での本人及び家族同席での検討会や、日々の生活の中で得た情報を基に作成している。利用者・家族・関係者による検討会で、本人の希望に沿った在宅に向けての計画を作成し、実施したこともある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別の介護記録がある。申し送りや記録物を見ることで日々の様子や変化が理解でき、職員間の情報の共有ができています。なお、介護の改善に役立つように記録を実践するとともにその前後を読み理解している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人の状況や家族の状況により、必要時には受診に同行したり、介助を行っている。欲しいおやつのお買出しに同行介助することも多い。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアの方々の踊りやコーラスのプレゼントがあり、一緒に楽しむことができている。介護相談員の訪問や、職場体験の生徒の訪問は利用者にとっては大変うれしいことである。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人・家族希望の医師による医療が受けられるように 支援している。 (外部評価) 利用者及び家族の希望により、入居後に、医療連携 体制を確保している法人代表者の開設する診療所にか かりつけ医を変更する場合もある。法人代表の診療所 からは、医師の往診が月2回以上、看護師の訪問が週 1回以上ある。他医療機関への受診支援は職員が行っ ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎週、定期的な看護師の訪問があり、健康管理や医療 との連携が取れ医療支援につながっている。日常気づ いたことや変化は、職場内の看護師や医療連携看護師 との連携もとれ、個々の利用者に適切な相談・指導を 受けている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 事前に十分話し合い、本人や家族の精神的な負担を少 なくできるように心がけている。退院時には関係者か らの情報交換をして、ホームでの介護に支障をきたさ ないように関係づくりを行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に、本人・家族の意向を聞いているが、現実に 直面したとき考えが変わることもある。利用者側の気 持ちの変化や、事業所の対応力等を考慮し、できる支 援を見極めながら医療との連携を図り、チームで支援 している。 (外部評価) 開設後約4年で、10名の看取り経験がある。入居時 に説明して希望を聞いているが、状態変化の都度、意 思確認を行い、尊重している。看取りに関する職員教 育に力を入れた結果、利用者の様子などからの希望の 把握や褥瘡の予防等、日常の業務においても良い影響 があらわれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 身体状況の急変や事故発生時に対して慌てず確実に対応できるように、日々の職場で実践訓練をすることも。初期対応の訓練を行っていない職員もおり今後早い時期に計画する。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難場所の確保はできている。全職員による定期的な実践訓練を行っているが、地域の方との一緒に訓練は行っていない。災害時には、デイサービスの解放や、非常食やタンクの水の提供をすることができる。寝具の備えもあり、寒さしのぎができる。 (外部評価) 年2回、消防署の指導のもとで訓練を実施している。車いすの利用者も多く、さらに頻回の訓練の必要性を感じている。管理者は、地域住民の協力を得ての訓練も実施したいと考えている。	地域住民から協力支援を得るための訓練を実施するほか、職員が緊急時に集合するために必要な時間を計るなど、さまざまな状況に応じた訓練を継続して実施していくことを望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) おむつ交換時・入浴時・失禁時等辱しめることがないように気配りしている。いつも立場を置き換えた訓練をすることでよいケアができることを実感している。 (外部評価) 訪問調査時、排便に失敗して混乱した利用者に対して穏やかでスピーディーな対応をしている光景を偶然目にしたが、利用者本人が落ち着くまで職員がそっと寄り添う姿に接することができた。利用者の表情は明るく、それぞれが気に入った居場所を見つけてゆったりと寛いでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の希望や願いが叶うように声掛けを行い、どのように生活を送りたいのかを把握している。意思表示のできない人なども、表情や全身の反応を見ながら今の気持ちを受け止めることができるように支援したい。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の決まりごとは頭におき、可能な限り本人の希望を尊重し、柔軟に対応している。本人が動ける人は、その人のペースに合わせ見守りながら支援している。第1ユニットでは、起床時間や就寝もまちまちである。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 髪の流れ、爪の伸び具合、衣類がきちんと着衣できているか常時見守り支援している。選択できる人は、その日に希望の洋服を着衣されている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事づくりに参加することで、本人の希望や好物を聞くことができ、次回のメニューに取り入れることがある。下ごしらえや、片づけを会話しながら行っている。スペースがないため同じテーブルに着くことはできないが、近くで見守っている。 (外部評価) 和やかな食事風景である。食事を中断される利用者には優しく声かけし、介助の必要な方には最小限の介助で対応している。食後の下膳や食器洗い、台拭きなど、利用者ができることを職員と共に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事や水分の摂取量が少ない方に対しては、特に気をつけ、少量づつでも好物の飲み物にしたり、方法を考え実行している。入居時より体重が増加している人が多く注意している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアの声かけを行い、自力では無理な方については側で見守り、できない部分の介助を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンを把握し、声掛けや誘導を行っている。バルーンから尿器に、そして今ではトイレでの排泄が可能になった人もある。	
			(外部評価) 排泄パターンを把握したうえで、個別に支援している。入居時にはバルーン使用であったが、排泄の自立に向けた支援により、尿器からトイレ利用となった経験もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎回の食事に新鮮な野菜も使い、繊維質のものを多く取り入れるようにしている。大根の皮を金平や味噌汁に使うなど工夫をしている。冷たい牛乳乳や、みかんなどの果物、さつまいもをおやつに使うことも多い。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 高齢になると入浴を嫌がる人が多い。タイミングを見て最低でも週に2回は入っていただくように支援している。希望されるときはいつでも気持ちよく対応している。	
			(外部評価) 希望すれば毎日入浴は可能であるが、最低でも週2回は入浴できるよう支援している。羞恥心・恐怖心・負担感等から入浴拒否にならないよう、さまざまな工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) おむつ交換や清拭をするなど、心地よく安眠できるように気配りしている。夜眠れない人には、昼間起きて他のことに目を向けられるように支援している。身体を休めるために、居心地のよい場所で休息を取っていただくなどの工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人の現病気を理解し、薬の持つ作用や用法についても理解できるように、処方箋や薬の辞典等で調べるようにしている。小さな症状の変化についても見逃さないように努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 長年暮らしてこられ、得意であった事柄や趣味など生活歴等を把握し、その人にあった楽しみごとを行えるように支援している。散歩や買い物、ホームでの生活の中で役割を持つ。歌や、リハビリを兼ねた運動など。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 希望に添った散歩や買い物の支援は行えている。暖かくなったら、今まで住んでいたところや、子供頃の懐かしい場所にも出かける計画をしている。一部の人は家族との外出を楽しまれている。	
			(外部評価) 日常的な外出は、散歩やおやつの買い出し、通院時の買い物等で支援している。ホームの年間行事は、花見などなるべく外に出かけられる内容とし、家族の協力も得られるよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 楽しみのために小額のお金を所持している人がいる。希望のものを買いに行かれるとき、本人が支払われることも多い。トラブルを避けるためや、希望により一定額を預かっている。必要時にはそこから出している。毎月報告書の送付をしている	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 耳が遠い人が多く電話の使用は少ないが、職員から意向を聞きダイヤルするなど使えるように支援している。手紙をいただいた場合は、返事を書けるように声かけしている。ファックスの利用も呼びかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 西日がまぶしいとき、カーテンを閉め、コタツでの団欒やくつろぎの場になるように配慮している。換気にも気を配り、日に2～3回の窓の開け閉めをしている。職員による季節の花は切らさない。</p> <p>(外部評価) 畳コーナーのあるリビングにはひな人形が飾られ、明るいテラスからは地域が一望できる。キッチンからは利用者の動きを含めリビングの状況が把握でき、職員は穏やかに声かけしながら支援している。利用者はほとんどの時間をリビングで過ごしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) コタツでの横になりテレビを見る人や、日の当たる場所で日向ぼっこをする人もある。思い思いに過ごすことができるように居場所を工夫している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 人により乱雑に散らかっている方もありますが、片付けてもまた同じようになり、慣れた環境での生活が落ち着くと理解できた。使い慣れた食器を使っていたなどしていただいている。</p> <p>(外部評価) ベッド、洋服ダンス、整理ダンスは備品であるが、それぞれの配置は自由である。壁には利用者本人の作品である塗り絵、家族の写真、手紙等を飾るなど、居心地良く過ごせるよう工夫している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 手すりを使った歩行訓練を行う。また、食後の片付けや食器洗いなどできることをしていただいている。身長が低く、車椅子の背もたれに届かない人には、厚みある円座を用い背中が密着するようにしている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400317		
法人名	株式会社 新風会		
事業所名	グループホーム昴星		
所在地	西予市城川町下相693番地	(電話)0894-82-1027	
自己評価作成日	平成 22年 2月 15日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22年 2月 26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームが地域の方に理解して頂く様に年一回の納涼祭では、ボランティアの人たちの参加を呼びかけています。又、いつでも見学して頂く様に解放し、中学生の体験学習にも受け入れて地域とのより良い関係が築いて行ける様に努力しています。又、家族が見えられた時に、利用者さんの顔が穏やかで、良い顔になっておられると言って頂く様に職員全員で、きちんと挨拶が出来、責任のある行動、言動に気を付けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人が運営する複数の事業所が相互に連携しながら、利用者のケアの質の向上に努めている。「私たちは家族として」から始まる理念をもとに職員個々が作成する年間目標を個人ロッカーに掲示して、日々の業務を振り返っている。職員からは、「利用者一人ひとりと関わりの深さには苦しさをとまなう場面もあるが、利用者の明るい表情に癒され、仕事にやりがいを感じている」との話が聞かれた。ホームは開設から4年が経過し、地域との連携をさらに深めたいとの思いから、近隣の他法人事業所と連携し、運営推進会議に参加し合って互いのホームの良いところを吸収し、新たな取り組みを生み出そうと努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム昴星

(ユニット名) 第二ユニット

記入者(管理者)
氏名 高橋 志万子

評価完了日 平成 22 年 2 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所理念に元づいたサービスが、出来る様に常に念頭に置きスタッフ一人ひとりが、より良いケアが出来る様に共有し、実践している。又、一年間の個人目標を立て年間を通して少しでも目標に添ったケアが出来ているか話合う場を設けている。事業所独自の理念があり、掲示してある。新たにイズムをを掲げ、きびきびした行動実践につなげたい。</p> <p>(外部評価) 法人全体の理念のほか、ホーム独自の理念も作成している。ホームの理念は、利用者と職員が家族を構成しているという考えで作成しており、「私たちは家族として」から始まる言葉で表現している。この理念に基づき、全職員が個別に年間目標を掲げ、その達成度の評価を行っている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 挨拶を大切にし、中学生の職場体験受け入れたり、納涼祭を行う際はチラシを配布して交流に努めている。ボランティアで何か交流が出来る事はないか？地域の方に呼びかけはしています。中学生だけでなく今後は保育園児との交流も考えています。</p> <p>(外部評価) ホームは地域とより深く強く連携したいと願い、利用者とともに積極的に地域行事へ参加したり、納涼祭等のホーム行事に地域の方をお誘いしたり、中学生の職場体験も受け入れるなどしている。次の段階として、保育園との交流を目指して検討中である。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症の家族の方の理解は得ていますが、地域の方との理解や支援方法は話し合いの場を設ける事が出来ない。話し合いの場を設ける方法から考えていく必要がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 二か月に一回開催し、利用者の代表、地域の役員さんに参加して頂き、意見交換の中で、希望、要望を心身に受け止め、サービス向上に活かしている。又、外部評価の協力を依頼し、外部評価の結果報告を行っている。有意義な会になる様に今後も努力しながら地域の理解を得る様に取り組みたい。	
			(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者及び家族も参加している。会議内容の多くがホームからの情報発信・報告であるという状況等から新たな取り組みが必要であると考え、近隣の他法人事業所と相互に会議に参加し合い、互いの良いところを参考に会議内容を検討する等を計画している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 連絡事項などの必要事項は連絡を取っていますが、まだまだ積極的な連絡には至っていません。ケアサービスに必要な資源に対して、実情を説明し、話し合い、協力を得たいと思っています。	
			(外部評価) 市担当者とは、支援の困難な利用者に関する相談を行った経験や、日頃の情報交換などから、お互いに理解し、円滑な協力関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束をしない、人権を守るケアの実践に努め、安全に快適な暮らしが出来る様に、身体拘束の弊害を正確に認識する様に勉強会を開催し、マニフェストなど職員全員で取り組んでいる。ホーム玄関を開けるとチャイムがなる工夫をしてあり確認する事が出来る。「一時的」な身体拘束が時間の経過とともに「常時」の拘束となり、身体機能の低下にならないケアに取り組んでいます。	
			(外部評価) 職員は人権を守るケアについて学習し、十分理解している。家族と幾度も話し合った結果、家族及び職員相互の了解のもと、ベット柵の利用、車いすのベルト固定、つなぎ服の着用等を行うケースがある。	現在の状況から一日も早く脱却できるよう、職員全員で検討して意識統一を図り、身体拘束をしないケアの実践に向けて努力していくことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止法などによる債務や義務を再確認する様に勉強会を行って、早期発見・早期対応をしていく様に注意しています。言葉の虐待にも注意しながら、いたわりのある気持ちを忘れない様に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護・青年後継者制度の理解をしてもらう様に勉強会を行っている。必要に応じた対策が出来る様にしたいたいの為には、これからも制度の意義や理解を得られる様に研修等にも参加して、活用出来る様にしていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事前調査、契約終了時に契約内容の説明を十分行い、納得を得ている。不安や疑問点がある場合は、電話連絡などで情報交換を行い理解を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会に来られた際に要望・意見を聞く事に職員一同が務めています。運営推進委員会でも具体的に取り上げ意見交換をしてサービスと質の向上につなげています。こちらの意見を通すのではなく十分に意見を聞き、受け答えに責任を持ち運営に反映させたいと思っています。 (外部評価) 利用者及び家族も運営推進会議のメンバーであり、意見や要望を聞く機会を設けているほか、介護相談員の来訪などもあり、職員は利用者や家族がゆっくり話できる場の確保に配慮している。また、家族の来訪時は意見を聞ける大切な機会と捉え、積極的に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 月一回の業務カンファレンスの時に職員個々の意見や提案を発言してもらい反映刺せている。記録に残し誰でもが見て情報交換が出来る様に努めている。申し送りノートなどで情報交換を行っている。</p> <p>(外部評価) 毎月の業務カンファレンスのほか、日常的に管理者・ホーム長が職員の意見や提案を聞いている。運営法人では、2か月に1回のホーム長会議を職員の意見を聞く機会としている。会議内容は口頭あるいは申し送りノート等の記録で全職員に伝えている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員個々の勤務状況に応じた努力や実績は多いに評価したいものがある。ケアカンファレンス等で良い事は取り入れ反省すべき所は話し合いを行っている。ただ給与水準は年功事例がない為、どうとも言えないところがある出来れば、やりがいが出るような仕組みも考えてほしい。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修会や介護フォーラム等開催される時は希望者を募り職員個々の能力に応じた研修会に参加してもらっています。勤務変更をしたり、研修を受けたことを報告する機会を設けて職員に共有し、支援につなげている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 他同業者との交流の場はありません。法人内系列のグループホーム間の管理者交流の場はありますが、職員同士の交流も薄いです。他同業者とのネットワーク作りも困難な様に思いますので、勉強会などの開催日時を情報交換し合いながらサービスの質の向上に努めていきたい。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 本人が安心して生活出来る様に、何をしてほしいか・自分の気持ちが伝える事が出来る雰囲気を築き常に耳を傾け、状況に応じて職員が統一した返答をして、信頼関係を築き本人の安心を確保している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族様の要望を聞き、困っておられる事、求めておられる事等も踏まえて、何がなかを見極め、出来る事は速やかに実行して信頼関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談を受けた時、家族の実情や要望を十分に聞き、本人にとってまず必要な事を見極めた上で、徐々に馴染んで頂く様に段階的な支援に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員本位の介護ではなく、家族の一員として共同作業場等で出来る事は役割分担などをして個性や力が発揮できる環境を築いています。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 書類郵送時に状況報告を入れたり、本人のメッセージを伝えています。電話で声を聞くだけでも安心されるので面会に見えた時は電話のお願いをしたり家族との架け橋を心がけています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) これまで大切にして来た人間関係・場所が途切れる事のない様にデイサービスを利用されている方との交流を図っています。外出できる方は限られています、行事等を通して近くの場所まで行ったりはしています。 (外部評価) 併設のデイサービス利用者との交流や、夫婦や兄弟で入居している利用者がそれぞれ交流できるよう、職員が支援している。来訪者のほとんどが家族であり、友人等の訪問は多くない。	職員は、地域への浸透度はまだまだ低いと考えており、周知のための取り組みについて今後さらに工夫していくことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 共同作業の場を設けたり、毎朝リハビリ体操、全員揃ってのおやつ時は、お茶の配膳等一人ひとりに目配りして支えあって生活出来る様に支援しています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 情報提供に元づいた介護がなされているか・これまでのケアの工夫等を継続的に行って頂いているか必要に応じて、これまでの関係性を重視して相談に応じています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) その人らしい暮らし方を把握して、今迄の生活習慣を大切にサービス利用に努めている。把握が困難な人に対してはその人らしいあり方に付いて、ケアカンファ等で意見を出し合い十分検討していく取り組みをしています。本人の希望や能力を大切に、利用者本位の生活支援を目指したいと思います。 (外部評価) 利用者ごとの生活歴を把握し、利用者本位の生活支援を目指している。日頃の様子や、職員からの声かけに対する利用者の言葉を詳細に記録することで得た情報を、介護計画や日々の支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴を把握した上で、残存脳力を継続出来る様に、縫物、プランターで野菜や花などの栽培、出来る事を見守りながら、日々の生活の中で、穏やかに過ごせる様に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎朝、バイタル測定を行い、特に心身状態には気を付けて、記録に目を通し、職員に申し送りをしています。申し送りノートも作成しています。個々に合った出来る事（例えば洗濯物たたみや配膳）を見出し一緒にする様にしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月、一回のケアカンファレンスで本人のニーズを話し合い、介護する側でなく、本人が安楽に生活する為の支援策を提案し合っています。良いアイデアが浮かんだ時には、食事時にも話題にしてケアに努めています。日々の生活記録にもケア目標を記しています。遠距離の家族の方が安心して頂く様に状況を伝える機会も作りたい。 (外部評価) 介護計画は3か月に1回見直している。可能な範囲での本人及び家族同席での検討会や、日々の生活の中で得た情報を基に作成している。利用者・家族・関係者による検討会で、本人の希望に沿った在宅に向けての計画を作成し、実施したこともある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子は、しっかり目配りをしていないと、気づく事も気づかないで毎日の記録はマンネリ化しがちです。ささいな気づきでも職員が情報を共有出来る様に原点に戻り介護計画の見直しに活かしたいと思えます。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 日々の生活を通して、その時々生じる問題は、状況に応じて対応しています。例えば身体問題であれば主治医家族に連絡をして対応し、福祉用具が必要な場合は、必要に応じて、家族と連絡を取り、柔軟な支援やサービスに努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 外出出来る方が限られている為、買い物等は、出来るだけ行事計画に取り入れています。民生員の方とは月、一回の運営推進委員会に出席して頂き情報交換を行っています。ボランティアの方コーラス、舞踊など来て頂いたりしておりますが、他、地域活用は、全面的な取り組みがまだ困難な面があります。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 毎朝、かかりつけ機関に身体状況、体調の様子を報告 しています。週、2回は往診に来て頂いて診察して頂 く事で、利用者さんも安心しておられます。家族の同 意も得ています。専門医院が必要な場合は、歯科、ひ 尿科、眼下等は適切な医療を受けられる様に配慮して います。</p> <p>(外部評価) 利用者及び家族の希望により、入居以後に、医療連携 体制を確保している法人代表者の開設する診療所にか かりつけ医を変更する場合もある。法人代表の診療所 からは、医師の往診が月2回以上、看護師の訪問が週 1回以上ある。他医療機関への受診支援は職員が行っ ている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 毎日の申し送りで身体状況を報告しています。毎日か かりつけの医療機関に報告をしています。訪問看護 師、主治医も2週間に一度来て頂いています。介護職 員が疑問に思う事は、聞き、指示を仰ぎ日々の介護に つなげています。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 安心して治療に専念して頂ける様に、本人、家族に出 来るだけ納得して頂けるように誠意を持ち、十分な説 明をしています。専門的な事は病院関係者と情報交換 をして直接家族に説明して頂、き安心して頂ける様に 努めています。経過なども気き、家族とも連携を取っ ています。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居契約時に本人・家族と十分話し合いをして、意向 を聞き、医療連携体制の同意を得ています。利用者の 状態が重度化した場合の対応は、主治医、管理者と連 携を取り、家族に連絡する様に共有しています。気持 の変化はどうする事も出来ない時もありますが、利用 者の事を第一に考えた十分な話し合いが今後も必要だ と思います。</p> <p>(外部評価) 開設後約4年で、10名の看取り経験がある。入居時 に説明して希望を聞いているが、状態変化の都度、意 思確認を行い、尊重している。看取りに関する職員教 育に力を入れた結果、利用者の様子などからの希望の 把握や褥瘡の予防等、日常の業務においても良い影響 があらわれている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や偶発的な事故発生した場合の対応の仕方は救命講習を受けた職員もいますが、全員ではない為、適切な処置が出来るかは自信がありませんが、状況判断を見極めた行動が大切だと思いますので今後はモデル等で訓練をして実践力を身に付けたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 半月に一度消防訓練を行い、動ける利用者を優先して非常時の対応を実践している。緊急連絡網を作成して各自所有すると共に電話の側に掲示しています。職員は、いつ起こるかわからない事態を常に考えていてほしい。緊急連絡委員を置き、消防署が実地する訓練に参加して指導を受けた職員もいます。物品、スロープなどの置き場所を決めておきたい。 (外部評価) 年2回、消防署の指導のもとで訓練を実施している。車いすの利用者も多く、さらに頻回の訓練の必要性を感じている。管理者は、地域住民の協力を得ての訓練も実施したいと考えている。	地域住民から協力支援を得るための訓練を実施するほか、職員が緊急時に集合するために必要な時間を計るなど、さまざまな状況に応じた訓練を継続して実施していくことを望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの誇りやプライバシーを損なわない様に出来るだけ気を付けて、パート職員も含め全職員が対応していますが、身体程度により人格の変化が現れる場合もあります。馴れになり言葉が乱暴にならないように反省しながら対応しています。記録などは、フルネームで記載しない様にしたり、オムツ交換時はカーテンなどの配慮をしています。 (外部評価) 訪問調査時、排便に失敗して混乱した利用者に対して穏やかでスピーディーな対応をしている光景を偶然目にしたが、利用者本人が落ち着くまで職員がそっと寄り添う姿に接することができた。利用者の表情は明るく、それぞれが気に入った居場所を見つけてゆったりと寛いでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の生活の中の会話や表情を観察しながら、してほしいこと等をくみ取り「、、、しますか？」ではなく「、、、してみますか？」と問いかけたりしながら思いや希望に添える様に働きかけています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりにあった食事・特に入浴はゆっくりと自分で出来る事は、あまり手を出さない様に見守りながら、個々のペースで生活が快適に暮らせる様に支援しています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分で気に入った服を入浴時に持って来て頂き、確認しています。女性の方は洗顔の後の化粧水など、付けておられます。「似合ってますヨ・いい匂いがします」など声かけを忘れないで支援をしています。帽子やスカーフ等も気にいってされてる方もおられます。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の下拵えや配膳を出来る人に出来る事を提案して共同作業をして頂いています。共同作業をしながら好みの食べ物を聞き、献立に取り入れています。又、誕生会等の時はケーキの盛り付けなどを一緒に行い、一緒のテーブルで頂いたりして楽しんで頂いています。季節感も味わって頂ける様に季節の物を取り入れ得ています。 (外部評価) 和やかな食事風景である。食事を中断される利用者には優しく声かけし、介助の必要な方には最小限の介助で対応している。食後の下膳や食器洗い、台拭きなど、利用者ができることを職員と共に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食べる量は食器で調整しています。水分確保は水分チェック表で一日の水分を確認しています。おやつ時は好きな飲み物を用意するなどして工夫しています。職員で献立を作成するのでカロリー計算までは出来ていません。偏らない様に出来るだけ気を付けています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の口腔ケアは必ず声かけをする様にして、されたか確認を行ってチェックをしています。一人で出来ない方は誘導して口腔内の清潔保持に努めています。習慣づける様にして頂いています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間を見て声かけ誘導をしています。夜間トイレが困難な方はポータブルトイレを利用して頂いています。一人ひとりの残存機能を生かしたケアを心がけ、トイレ後の手洗いを習慣づける様にしています。又、廊下にテープなどを貼りトイレの場所が分かる様な工夫もしています。	
			(外部評価) 排泄パターンを把握したうえで、個別に支援している。入居時にはバルーン使用であったが、排泄の自立に向けた支援により、尿器からトイレ利用となった経験もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘気味の人に対しては、食物繊維の多い食品を取り入れ、排泄パターンチェック表で確認をしています。又個々に応じた運動を取り入れたり、腹部マッサージ、水分の摂取も把握出来る様に水分チェック表で確認しています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴は、その日の体調も観察して、本人の希望により支援しています。最初は拒否される事もありますが、職員の声かけの仕方、個々に応じた対応をして、入浴する事で気持ちの良い物だと思ってくることが大切だと思っています。	
			(外部評価) 希望すれば毎日入浴は可能であるが、最低でも週2回は入浴できるよう支援している。羞恥心・恐怖心・負担感等から入浴拒否にならないよう、さまざまな工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一日の生活のリズムにあった状況を把握して、昼間でも畳やこたつで横になって頂いています。一人ひとりのその時の状況にあった休憩は必要だと思いますが、安眠出来ない事も考えながら、日中は活動して頂く様に職員全員が考えながら支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方された内服薬や外用薬の説明書綴りを作っています。本人の状態や経過や変化は毎日、医療機関と連携を取っています。服薬されるのを見届けています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人に合った役割があり、それに対して職員と一緒にする様に心がけています。行事など計画を立て、気分転換に外出、バイキングなど楽しみごとの支援をしています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出の困難な人もありますが、年間を通じての行事（花見、運動会、地域の甘茶、地域の文化祭）個々の体調に配慮しながら、計画を立て、外出しています。日常的な外出はホームの近所を散歩しています。お墓参り等は家族の方が見えた時、出かけられる人は行っておられます。 (外部評価) 日常的な外出は、散歩やおやつのお買い出し、通院時の買い物等で支援している。ホームの年間行事は、花見などなるべく外に出かけられる内容とし、家族の協力も得られるよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族が面会に見えた時、渡しておられますが全員の利用者が所持しておられるわけではない。必ず職員全員で所持金は把握しています。ホームまでパン屋さんが見えた時等は、同行して使ってもらっています。預かり金は、毎月、残高の報告は家族に総務の方から郵送して頂いています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人のされたい時はいつでも使用して頂いています。郵送物がある時はメッセージなどを記載する様に支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節の草花を飾ったり、壁には季節の張り紙をして楽しんで頂いています、共同生活空間はいつも清潔にする様にしています。</p> <p>(外部評価) 畳コーナーのあるリビングにはひな人形が飾られ、明るいテラスからは地域が一望できる。キッチンからは利用者の動きを含めリビングの状況が把握でき、職員は穏やかに声かけしながら支援している。利用者はほとんどの時間をリビングで過ごしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) フロアにはこたつやテレビなどを設置して自由に、横になったりされ、座椅子等を置き、談話が出来る様にしています。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居時に家族に部屋を見て頂き決めて頂いています。部屋には写真を貼ったり、タンスの上には時計や雑誌などを置かれたりして、本人の気に入る様にしています。誕生日や母の日には、家族の送って頂いたものを飾ったりしておられます。泊まりの部屋はべつにありませんが面会の時は自室でお話して頂ける様に配慮しています。</p> <p>(外部評価) ベッド、洋服ダンス、整理ダンスは備品であるが、それぞれの配置は自由である。壁には利用者本人の作品である塗り絵、家族の写真、手紙等を飾るなど、居心地良く過ごせるよう工夫している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人ひとりの限界はありますが、洗濯物たたみや食器洗い、食事の下拵えなど出来る事は出来るだけ本人にあった事を職員と一緒にする様にしています。夜間トイレの困難な方はポータブルトイレを置くなどの工夫をしたり椅子から転倒しない様に棒を付けたりしています。</p>	